

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要		事業開始年度		昭和61年度		根拠法令・例規等		備前市営バス運行事業に関する条例		
総合計画	大項目	基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり		問	担当課(室)	企画課		
	中項目	基本施策	01	生活しやすいまちづくり			合	職・氏名	企画政策係長・田原義大	
	小項目	施策	12	公共交通			先	電話	0869-64-1871	
事務事業名		02		市営バス運行事業		このシート作成に要した時間		2.0 時間		

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	交通弱者(学生、高齢者、マイカーを持たない人)、吉永和意谷・三国地域の沿線地域住民		
目的(何のために)	通学・通院・買物等のために移動する手段の確保		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	生活交通手段を確保し、市民に利用してもらおう。		

事業の実績		Do		
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明		優先度
	市営バス運行事業	和意谷線(16.0Km)と三国東西線(13.2Km)市の所有するバスで運行している。運転業務を日生運輸㈱に委託し、運行に係る維持経費は市が負担している。スクール利用者の運賃は平成26年3月末まで無料。(三国東西線の運行経費は教育委員会で費用負担)		

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	事業費	直接事業費	千円	2,311	2,140	2,293
	必要人員	人件費	千円	0.07人	0.07人	0.09人
	事業費	費		2,997	2,879	3,247
	財源	国庫支出金	千円			
		受益者負担		84	78	69
		繰入金				
		市債				
	一般財源		2,913	2,801	3,178	
	受益者負担比率	%		2.8%	2.7%	2.1%
結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	
運行系統		説明	運行系統数			
結果指標	結果指標量	系統	1	1	1	
	対前年比	%		100.0%	100.0%	
	活動コスト	円	2,997,000	2,879,000	3,247,000	
	単位当たりコスト		2,997,000	2,879,000	3,247,000	

事業の成果		Check				
年間利用者数(和意谷線)	成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
		目標値(A)	600	600	600	500
		実績値(B)	447	274	226	到達目標値
	達成率(B/A)		74.50%	45.67%	37.67%	500
成果指標設定の考え方・式や説明						
サービスを利用した年間延べ人数(和意谷線)						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要	市の関与の妥当性 市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
	市民ニーズ	必要	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	必要	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い D
	目的達成度	必要	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い D

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	当該路線の利用者は限られており、平成22年度からスクール利用者がいなくなったため、火曜日と金曜日のみ1日往復2便として減便し運行している。25年度は、地域公共交通計画にもとつき効率的、効果的かつ持続可能な公共交通システム構築を目指す。

総合評価		Action	
この路線は、交通弱者にとって必要な交通手段であるが、利用対象者は限定されている状況である。平成22年度の減便による運行改革により経費削減を行うことができたが、依然として効率性は低い。市民、事業者と共に新たな交通のしくみを考えていく必要がある。		総合評価	D

平成26年度の方向性・取組目標		Action				
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	平成24年度に策定した備前市地域公共交通計画にもとつき、必要となる生活交通の具体計画を作成し、持続可能な公共交通システム構築を目指す。					

事業の意図する成果となる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな